子どもの命を守る

事故対応

巡回訪問つうしん14号
令和３年 10 月発行

保育・教育施設においては、乳幼児の主体的な活動を尊重し支援する必要があり、子どもが成長していく過程でけがが一切発生しないことは、現実的に考えにくいものです。

そうした中で、園・施設・事業所における事故が、重篤な事故にならないよう予防と事故後の適切な対応を行うことが重要です。ここでは、事故発生時の対応とその後の環境、人的配慮面等の改善について考えてみます。（下記※を参考）

事故発生時とその後の対応

- 直後の対応　（応急処置・状況把握）
- 役割分担（対象児・その他の児の安全・連絡）
- 時間経過の記録（5W1H に沿った記録）
- 事故以降の対応（保護者対応と報告）

★重篤な事故の場合は、
※『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン【事故発生時の対応】～施設・事業者、地方自治体共通～　内閣府　平成 28 年３月　』を参照

通院前の確認について

（1）　意識、出血の有無
（2）　けがをしている部分とその範囲
（3）　けがをした原因とその経緯
（4）　年齢・性別・既往症(アレルギーの有無等)・体重
（5）　搬送前に行った手当の内容
（6）　保護者に通院承諾（レントゲン等）の連絡とその後の連絡方法の確認

★個人情報なので、取扱いには注意しましょう。

けがの時の基本的なルールについて

- けがは必ず複数で確認
- 応急手当（傷口を流水で洗うなど）
- クラスで共有して園長に報告
- 通院する判断
- 救急車を呼ぶ判断

- 土曜日や延長時間等、職員体制が少ない時の対応の仕方
- 応援体制、役割分担
- けがの状況についての情報共有

★園でのルールを決めておきましょう。

保育・教育施設で起こった事例

・おんぶヒモ、抱っこヒモからの転落
おんぶヒモを使う時には、低い姿勢で、複数で行いましょう。
抱っこヒモの使用時に、物を拾うなど、かがむ時は必ず子どもの頭を手で支えましょう。

・ブラインドやロールカーテンなどのヒモによる窒息
ヒモが首に絡まないよう、子どもの手の届かない所にまとめましょう。
ヒモに手が届くところに、踏み台になるような物を設置しないようにしましょう。

・シール、装飾物、吸水ボールなどの誤嚥・誤飲
シールや装飾等の落下物を誤嚥して窒息することがあります。周辺の確認、危険と思われる物は取り除くなど、保育中の安全点検に努めましょう。
また、吸水ボール（樹脂製の吸水ボール）の誤飲は、腸閉塞などを起こす恐れがあります。玩具の購入時や利用時は、商品の対象年齢を必ず守りましょう。

保育・教育環境の改善のポイント

□保育を始める前や、保育の振り返り等で一人ひとりの子どもの発達や変化について、気づいた事を話し合いましょう。
□園外保育では、活動に入る前に保育者間で子どもの状況を確認しあい、保育者の位置、声かけ、見守りを確認しましょう。
□園の環境の中にある危険や、安全に関する指導を行い、遊具の使用等については、子どもと話し合ったり、ルールを設けたりしましょう。
□重大事故につながりかねない事例については、園全体で要因分析をしましょう。
□「誰かが見ていてくれると思っていた」ではなく、積極的に声をかけ合い、常に子どもの動きを把握しましょう。
□緊急時の対応体制の確認は、日頃から研修や想定訓練の機会を通して行いましょう。
□事故防止マニュアルの園内研修を行い、危険箇所や対応の仕方を全職員で共有しましょう。

【参考】内閣府　令和元年度保育有識者会議　要因分析より

巡回訪問員が選んだ、ぜひ!!読んでほしい資料一覧

★教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時のためのガイドライン
【事故防止のための取り組み】～施設・事業者向け～　内閣府　平成 28 年３月
★子どもを事故から守る！事故防止ハンドブック　消費者庁　令和３年６月
★子どもの事故と対策　～子どもを事故から守ろう～　日本小児科学会 2018 年
★事故防止と事故対応　横浜市　令和３年３月

＊「保育の救急訓練について」は WEB にて動画が多数掲載されています。

こども青少年局　保育・教育運営課
連絡先　045-671-3564